

「Doubut 疑い、Delusion 欺き」

使徒 4:32 ~ 37 5:1 ~ 11

昔私達の生活が影で働く黒子に支えられているとしたらどうでしょうか。今幸せな環境で生活していますが、実は色々な人の努力や英知で便利な生活が与えられ、出来上がったシステムの中で当たり前のように生活出来ているのです。もし、心の中でクラッシュが起こって、本来届ける情報が間違っただけならどうでしょうか。そんなつもりで伝えたのではないのに、相手はそうは受けとってくれていない誤解の中で、解決ができないまま疑心暗鬼のまま自己防衛しながら生活しているのです。

■ 大きな恵みカリス・メガス

大きな恐れホボス・メガス 神を恐れかしこむ

アナニヤとサツピラ夫 婦が自分の土地を売って偽って代金を持ってきた話です。

私達日本人は世界の中でみれば 99 パーセントの人が持たない資産を持ち、高水準の中で自由の権利を持って生きています。今回のコロナの問題でも、日本は法律上ロックダウンは出来ず自分の意思で自粛する事を要請されましたが、自粛は本来は自分で判断する事なので不思議な事です。アナニヤとサツピラも自由の中で生きていける事を知っていたのに、その自由を放棄してしまいました。私達も自分に与えられているものを間違っただけで放棄しているかもしれません。それを確認したいと思います。

■ 欺きの意味；惑わし 惑い、欺き、迷い、妄想、思い違いに打ち勝つ

多くの人は思い違いをして、思い違いによって自らを欺いて生きています。大切な事は自分の力で生きていくのではない事を知り、私の背後で動いているものがあり、情報は正しいかどうかかわからない事を知る事です。私達の心に入ってくる情報は心に惑わしを与え、惑わしは迷いを与え、迷いを与えられた私達は、その惑わしによって思い違いをします。思い違いによって自らを守らなければならなくなった人間は欺きを行います。これが今回のアナニヤとサツピラに起きてしまった悲劇です。彼らはバルナバが自分の畑を売った代金を捧げて賞賛を受けている姿を見て、自分達も人々からの賞賛を受けようとして捧げたのです。これは本当の願いがあるのに、人の視線を気にして自分の立場を良くする為に、私達の心に潜んでいる一番の誘惑です。視線がずれているのです。もし、私達の生活水準が落ちたら、今のあなたの心や信仰はどうなりますか。どんな境遇になっても満ち足りる事を知り、富める事も貧しさも神が与えて下さる恵み = カリスである事を知る事が大切です。恵みは物理的なものと比例しているとは限りません。貧しさの中でこそ学べる恵みがあります。

■ アナニヤから学ぶ人生を惑わす誘惑

①比較

最高ランクの商品が買えないなら、必要な機能だけがある一番安いランクが本当はお買い得ですが、プライドがある為に、一番下は選べず真ん中のランクを選んでしまう心があります。商品にランクがあるのは安心する為です。自分に必要なものは何かを知って、それを狙えばいいのです。自分の価値、役割を知らず、他者と比較して優劣をつける為に選ぶのは愚かで悲劇です。人と比較して優劣をつける事で自分の立ち位置に安心感を得ようとする生き方に対して聖書は真逆のことを言っています。

②執着が私達を汚染している

植えられ、そこに種が落ちただけなのに、私達はそこがいいと思う執着によって自らを失って行く怖さがあります。バルナバは執着していませんでした。自分の持っているものを神に捧げたのであって、人々に良い顔をしたわけではありません。彼は多く用いられ、慰めを与える者と言われました。

③執着はむざぼりに変わる。

むざぼりに、惜しむ心、誘惑があります。アナニヤは人々の賞賛が欲しくて神様ではなく人に見せようとして捧げました。心の中にむざぼりが住んでいます。これはニーズで、原語は悪魔に近く、今は必要という言葉です。ニーズは本来私達が「寝る、食べる、子孫繁栄」など安定し子孫を増やす為にある元々は良い欲です。でも人間の欲は駄目といわれているものにまで進み、食べてはならない実を食べて、あなたの作った女が食べると言ったという欺きとなり、人類の全ての心をむざぼりによって失わせていったのです。このアナニヤ事件は人間が抱えている一番の問題です。

④プライドを持ち、人の評価を気にする

欺きを抱えるとプライド持ち、人の評価を気にするので、自分を

守ろうとします。神様から評価されなくなったら、人からの評価を気にします。聖書の中を見ると、正しく生きた人で最初に良い評価を受けている人は少ないです。正しい事を行おうとすると悪く言われます。善を行う為に悪を受けるなら喜べと聖書には書かれています。サウル王も悔い改めず人々から評価されようとした。これは私達の心の中にある不信と恐れという弱さの現れです。人からの評価を気にして、自分の居場所を少しでも沢山得ようとするのは、砂の上に乗る家と同じです。一時的な人からの評価を得るのを辞めて、神様からの評価を得ようとしなさいといけません。あなたは誰から評価を得ようとしていますか。

■ 根本的な解決をされる神様

神様を裏切り、嘘を言い、人々に見せる為に何かをしても、見ているのは神様です。神様をごまかしてしまう私達の心を罰したいのではなく、その偽りを取りたいと思っています。だから、人生の中で色々な所を通り、与え取られる事を通して教えようとされているのです。ペテロは生まれつき立てない人に対して、私に金銀はないが立てと言いました。現実的に考えれば、生まれつき歩けない人に立てというのは、ひどい事です。でも立てさせました。立つ前に力が与えられたのではなく、立ったときに力が与えられました。信じて行なった時に変化が起きるのであって、それまでは何も起きないのです。あなたが疑い不信を持って神様を欺き、奪っているものがあるなら弱さを出せません。弱さを見せない事は、見えている様に見えていない状態であり、死んでいる事です。最強の武器は弱さを認める事です。今、豊かな人は執着がないか気をつけて下さい。与えられる事も感謝な事です。あなたの心を惑わす惑いに気をつけましょう。惑いに打ち勝つ為に大切なのは弱さを認める事です。何かを持っておこうと思うからいけないのです。自分はただの管なので、流せばいいのです。全ては任されているものです。神様が撒けといわれている事に使いましょ。蒔かなくていい所に使うと、使い方によっては無くなってしまっただけです。

■ 自分の弱さを認める

あなたが何を見て行動しているか、私達の悪巧みも知って、それになくするように共に生きようとするのが神様です。不要なものを聖絶しようとしているのです。同調して一緒に罪を犯すのではなく、一緒に正しい道を選ぶようにするのが教会の共同体です。人は弱く罪に誘惑されるので、友が必要なのです。自分の中の弱さ、プライドを見つめて受け取る事が大切です。神様に愛されて守られているという誇りは良いです。私を守るのは神様であり、我が盾、我が砦と、神様を誇りとしたのでダビデは神様に愛されました。プライドを持って自分を守ろうとするなら、そのプライドは貧弱ですが、神様の守りは盤石です。

いつも間違っただけを選び、弱さを認めず、弱さを隠す為にプライドを持ち、大きい者の様に装っていませんか。あなたが持っている物は何の為に必要なのか、よく自らを見極めて下さい。あなたが貧しさの中で早く学ばば、次のステップに行って、今度は豊かさの中にある正しさを学ばす。でも貧しさの中で自分の必要に生き、愚かなれば、いつまでもその貧しさはあなたの脅かし、絶えず貪欲になるだけです。持たない者は持っているものまでも取り上げられ失う、これが神様の秩序です。そして今任されている私達は気を付けなければいけません。今、神様はあなたの持っているものを削って生きよと言われています。世界が大変な時に、日本も自分の為だけに生きる事は辞めなければいけません。10分の1は神の為に、10分の1を将来の為に、10分の1を傷んでいる隣人の為に与えていける様に、今自分の生活を見直すのです。何も失っていないのに、それを惜しいと思うのならあなたは執着をそこに置いているのかもしれませんが。神様はあなたの執着や弱さを理解して受け止めて、そこから抜け出せるように、あなたを作り変えるために全てを投げ出し命をかけた。あなたは欺き隠す事を辞めて、主よ私には弱さがあります。私はいつもこんな失敗を繰り返して自分を守ろうとしてしまっています。私からそれをとって下さいと神様の前に出ましょう。一人になるのが怖いのに相手を憎んでいませんか。今、考えを変えて、心を作り変えて下さいと祈りましょう。

(要約者:日名陽子)

(2020年6月7日)